

## インフォシス、Infosys Modernization Suite で クラウドへのエンタープライズ・モダナイゼーション・ジャーニーを加速

Infosys Modernization Services を推進する Infosys Cobalt シリーズのスイートで、  
企業によるレガシーの再創出と成功を実現

バンガロール (インド) – 2020 年 12 月 10 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NYSE: INFY) は、本日、[Infosys Cobalt](#) シリーズの製品として、企業のエンド・ツー・エンドのモダナイゼーションを加速する Infosys Modernization Suite の提供を開始すると発表しました。Infosys Modernization Suite はレガシー・システムのモダナイゼーションを支援し、優れた顧客体験の提供、市場化までの時間の短縮、自在な拡張縮退可能性と費用削減を図り、企業のレジリエンス、応答性、今ここにある課題の関連性を見出す能力の確立を促進します。

インフォシスのエグゼクティブ・バイスプレジデントである **Shaji Mathew** は次のように述べています。「Infosys Modernization Suite は 40 以上のモダナイゼーション・サービスとともに、レガシー・システムのモダナイゼーションを必要とする企業に、完全なソリューションを提供します。経験豊富なコンサルタント、充実した人材プール、50 社以上のパートナーを擁する広大なエコシステム、さらにこれまで 600 社以上にサービス提供してきたグローバル・モダナイゼーションの導入実績を背景として、インフォシスはモダナイゼーション・ジャーニーを始めるお客様を成功へと導く能力を備えています。」

最近の [インフォシスの調査](#) では、デジタル変革の最も大きな障壁のひとつとしてレガシー・モダナイゼーションが強調されています。Infosys Modernization Suite はワンストップ・ソリューションとして、企業の開発負担を最大 40 %、市場化までの時間を 20~40 %、モダナイゼーションの費用を 15~30 %削減します。これらはいずれもインフォシスの独自ツールにより実現される効果です。このスイートは 5 つの統合プラットフォーム (クラウドネイティブ開発プラットフォーム、クラウド移

行プラットフォーム、メインフレーム・モダナイゼーション・プラットフォーム、技術移行プラットフォーム、およびデータベース移行プラットフォーム) で構成され、これらを通じて複数のアプリケーション・モダナイゼーション・パターンに対応します。

Infosys Modernization Suite の主な機能は以下のとおりです。

1. **包括性** – 幅広いモダナイゼーション・パターンとテクノロジーを包摂するワンストップ・ソリューション
2. **俊敏性** – プロジェクトの立ち上げに統合および自動化されたエンド・ツー・エンドのワークフローを活用することで、市場化までの時間を削減
3. **効率性** – ライフサイクル全体の生産性を大幅に向上させ、モダナイゼーションの費用を最適化

**Kmart Australia** のメインフレーム・アプリケーションの再構築・リプレイス計画では、まず Infosys Modernization Suite により AWS クラウドで実行するメインフレームの仮想化を行い、余剰リソースを中核的な商品システムのモダナイゼーションに使用しました。**商品技術担当ゼネラルマネージャーの Kevin Love 氏**は、「当社は、メインフレーム・アプリケーションをリモートで 100 %クラウドに移行した、世界でも最初の小売企業です。クラウド・プラットフォームの俊敏性を活かして迅速かつ大規模に顧客体験のイノベーションと最適化を実行できる、絶好の地位にあると思います。インフォシスが真のパートナーとして、モダナイゼーション・スイートの自動化ツールを提供し、メインフレームとクラウド・モダナイゼーションの専門家チームを投入して、当社のモダナイゼーション・ジャーニーを共に歩んでくれることを喜んでます。」と述べています。

**E.ON UK** では、新規に獲得した顧客ベースに効果的に対応すると同時に、費用の削減、製品リリースのスピードアップ、顧客体験のさらなる充実を実現するためには、レガシー・システムのモダナイゼーションが喫緊の課題でした。**E.ON UK の最高技術責任者 Justin Miller 氏**は、「インフォシスが実施した早期の技術的・商業的バリデーションにより当社のモダナイゼーション・ジャーニーのリスクが抑えられ、また同社のモダナイゼーション・スイートを利用することで、単一の商取引インターフェイスによる適切なパートナーの確保と、市場化までの時間の高速化が実現しました」と述べています。

Infosys Modernization Suite と Modernization Services の詳細については、こちらをご覧ください。

1. [Infosys Modernization Suite](#)
2. [Modernization Services](#)

## インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 46 国でお客様のデジタル変革を実現しています。約 40 年にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、[www.infosys.com](http://www.infosys.com) をご覧ください。

## セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012 年会計年度（2013 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）と 2013 年第 1 四半期（2013 年 4 月－7 月期）（Form 6-K）を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、[www.sec.gov](http://www.sec.gov) でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

## お問い合わせ先

インフォシスリミテッド 日本支店

マーケティング本部長 安藤 [jo\\_ando@infosys.com](mailto:jo_ando@infosys.com)